

# 陶芸入門 - 焼きものの世界 - vol.1

日々の暮らしの中に溶け込んでいる焼きもの。お茶碗やお皿、焼き魚を盛り付ける専用の器など、用途やシーンに合わせて、その種類もさまざまです。今回は陶芸の基礎を学びながら、身近な器づくりにチャレンジしてみます。

## # 陶磁器の工芸

陶芸とは見出しの通り、陶器や磁器を扱った工芸のことを言います。まずは、その違いを簡単にまとめてみます。

	原料	厚さ	重さ	透光性	吸水性	焼成温度
陶器	陶土が主	厚い	重い	透光性なし	あり	1100 - 1300°C
磁器	石粉が主	薄い	軽い	半透光性	ほぼなし	1300°C程度



## # 日本六古窯

六古窯（ろっこよう）とは、日本古来の陶磁器窯のうち、中世から現在までつづく6つの代表的な窯のことを言います。20世紀中頃に古陶磁研究家・小山富士夫氏によって命名された「日本六古窯」は2017年春に日本遺産に認定されました。

日本六古窯 産地図

## # 代表的な焼きもの（産地）

日本の陶磁器には、六古窯以外にも美濃焼（岐阜県）・萩焼（山口県）、有田焼（佐賀県）・九谷焼（石川県）など有名な産地がたくさんあります。また、淡路島にも珉平焼という明治時代から伝わる焼きものがあります。

実作の前に、まずは身近にある器に目を向け、作風をはじめ、その造形美や用途あるいは使い手への心配りなどに目を向けてみましょう。



WEBサイト「旅する、千年、六古窯」より